

センダイハギとの出会い(第38号)

私がこの花と出会ったのは、厚田村に住んでいた時のことでした。札幌へ出かけた帰りのバスの中から、なにげなく外を眺めていると、綺麗な黄色い花が目に入り飛び込んできました。あの花は何の花かしらと気になりバスが着くとすぐに自宅から自転車に乗って花のあった場所まで行ってみました。

高さは40センチ位あり、蝶のような型をした鮮やかな黄色い花がひとかたまりになって咲いていました。北国に多く咲いているところから、仙台を舞台にした歌舞伎の「伽羅先代萩」より名前をとったといえます。豆科の植物で花が終わるとエンドウ豆のような種をつけます。牛も馬もこの草は口にしないようです。食べると腹痛を起こすようです。野原や海岸地方に群落になって咲くこの花は、とても目立ちます。この花を見ると、厚田村に住んでいた頃のことを懐かしく思い出されます。



センダイハギ



ミヤコワスレ

ミヤコワスレ (39号)

陽射しも一段と暖かきの増す6月を迎えると、我が家の庭に3色のミヤコワスレの花が咲き、彩りをそえてくれます。淡い薄紫、紫、ピンク色の花です。花好きのお友達からいただいたものです。

ミヤコワスレ(都忘れ)の名は、承久の乱(1221年)で、佐渡に流された順徳院の故事に因んで名付けられたそうです。

佐渡で不自由な生活の中で、この花に目を留めた順徳院がこの花を見て心と心が慰められ、都のことが忘れられると言った言葉が、花の名前になったそうです。切り花にしても花もちが良く、一輪さしや仏壇に飾ったりして重宝がられています。水の中に入れて置くと、茎から根が出て簡単に増やすことができます。庭の片隅に咲くミヤコワスレは、郷愁を誘う花のようです。

ゴヨウアケビ(第40号)

近所の庭の一角に、初夏になると新しい蔓がはげ遅しく伸び、きれいな緑の葉をいっぱい広げながら他の木に絡まっているのが見えました。秋になると、淡紫や灰色の10センチ位の楕円形の実がたくさんぶらさがっています。それが熟してくると、縦に裂けて黒い種子を含んだ半透明で乳白色をした果肉が見えます。

ここら辺りではあまり見かけませんが、アケビのようです。葉が5枚の小葉で掌状になっているのでゴヨウアケビのように見えます。道南に自生しているそうです。食べられるようですが、ちよと躊躇してしまいます。どんな味がするのでしょうか。

日本にはアケビ、ミツバアケビ、ゴヨウアケビの3種があり、本州の方ではアケビ類を垣根や庭木に登ぼらせ、時には日除けのために柵作りしている家もあるようです。



ゴヨウアケビ

(浦嶋 好江)

「かいちょう日記」で振り返る会の歩み

熱い思い 心揺さぶる

2011年「国際森林年」を迎えてもっと知りたい木や森のこと 平成23年3月19日 「座学会」注：座学会・ねまるがつかいと呼ぶ(ねまる・すわる・くつろぎながらの学習)

今回の「ねまる学会」は、2011年「国際森林年」を迎えて外部講師による講演を企画していましたが、さて、講師の依頼をどうするかを考えていたところでした。

丁度、1月29日の新年会で顧問段坂先生から、北の森林と健康ネットワークの林芳男理事長の紹介があり、早速依頼したところ快くお引き受けをいただきました。

この日は、会場は恒例の札幌エルプラザの研修室も満席となり、テーマは「森林浴のすすめ」森林と健康について火案が得る「での」講演でした。林先生は、もともと北海道の森林、林業関係の指導者で、現役当時から市長等の経験を踏まえながらの約1時間のお話しは、出席のみなさんを魅了しました。

先生の講演の結びとして、健康のために、「歩く」ことは極めて優れた手段である。折角歩くのであれば、お気に入りの森で「森林浴」を楽しんでください。21世紀は人の心を繋ぐ世紀です。乾ききつた感性に潤いを蘇

らせる為にも、森林・自然に触れ合う機会が必要です。人が本来持っている五感をいかしGOLを追及。ここで「かいちょう」のつづやき、会員のみなさんの「元気の森」づくりボランティアは、森からも「げんき」の恵みをもたらしているということか？これって相乗効果があるということか。

(第26号)

伐木安全指導員を迎えて「伐木作業安全講習会」

平成23年4月2日

今日は、例年続けているエンジューダイラのトドマツ人工林の除伐と、風景林整備作業を予定していましたが、「伐木作業安全講習会」を主体に実施することになりました。伐木作業には、労働安全衛生法及び労働安全衛生規則の定めにより危険な作業とされ、特別教育が必要とされており、また、刈払機を使用する者には、労働省の通達に基づき、伐木作業の特別教育に準じて行うこととされており、

このようなことで、林業・木材製造業労働災害防止協会主催の伐木(チェーン)作業安全衛生特別教育と、刈払機取扱員作業者の安全衛生教室講習会(3月17日)を、当会員の熱烈希望者数名が受講され、受講認定書の交付を受け、おめでとつづやきしました。



伐木作業安全講習会



木と森の座学会

ボタニカル(botanical)とは「植物学的」という意味です。だからボタニカルアートとは「植物学的な絵画」のことです。植物図鑑の絵(標本画)がそうです。ボタニカルアートには4つの約束事があります。

- 1 実物大に描く
- 2 背景を描かない
- 3 人工的な物(植木鉢、花瓶等)を描かない
- 4 そして、一番大切な約束事は植物の持つ特性を変えないことです。たとえば、互い違いに出ている葉を同じ所から出ているように描くと、全く違った植物になってしまいます。以上の約束事をふまえて描いたのがボタニカルアート(植物画)です。

現在、伐木を伴う作業は、受講されたみなさんがチーフとなって進めてまいりましたが、今回の除伐作業に参加されたみなさんにも基礎的なことを覚えていただき、安全作業で楽しくやってもらえるようにと安全講習会を実施することになりました。講師の山邦夫さんは元国有林で活躍されて、現在は北海道登録の安全指導員であり、学科から始まり現地模範実技と各班に分かれての実習を行い、最後にはそれぞれの道具やチェーンソーの整備も完了し次回も快適に使用できる備えもできて、大変意義のある一日になりました。

美しい森林を未来に引き継ぐ 財政も苦境も協働で乗り越える

平成24年2月吉日

(日本政策金融公庫発行の「AFC」フォーラム)24年2月号に掲載(かいちょう)の原稿紹介) さて、みなさんはあまり目にする機会が少ないかと思いますが、日本政策金融公庫農林水産事業本部(旧農林漁業金融熱心希望者数名が受講され、受講認定書の交付を受けおめでとつづやきしました。